

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成20年 8月6日
調査実施の時間	開始 10時 30分 ~ 終了 14時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ひまわり (鹿児島県)
-------------------	--------------------------

評価調査員の氏名	氏 名 腰 高行 氏 名 藤田 泰洋
事業所側対応者	職 名 管理者 氏 名 嘉原 輝子 ヒアリングを行った職員数 3名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月7日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4678600125号		
法人名	社会福祉法人 潤生会		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋瀬久井西8番地3 (電話) 0997-73-1311		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年8月6日	評価確定日	平成20年10月1日

【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6人、非常勤3人、常勤換算6.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	80 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いずはら医院 瀬戸内町へき地診療所 瀬戸内徳洲会病院 ア歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

共用空間である食堂兼リビングを中心に、ひまわりの花のように居室が配置された特徴あるグループホームである。明るく清潔な玄関から、大小の木炭を装飾的に設置し、それとなく除湿や脱臭に役立てている。集落の中に位置しており、近隣に利用者の友達や知り合いが多く、その人々とのかかわりから地域に深く溶け込んでいる。職員同志が和気あいあいとしているホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の見直しがされ、改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価の全項目を職員全員で評価して、サービスの質についての不十分な点に気づき、自己評価後、サービスの向上に活かしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
重点項目③	会議では、ホームからの状況報告、行政からの情報や地域代表からの協力の申し出などが出されている。また、家族から要望などの意見に対しては、職員会議で検討してサービスの向上に活かすようにしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
重点項目④	運営に反映するために、面会時や電話等で意見を出してもらうようにしている。また、運営推進会議でも家族代表として要望や意見がだされている。職員に対しては、家族との情報交換を密にした交流をする指導をしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	清掃などの地域活動や行事に参加している。子どもたちがよく立ち寄りしており、子ども会のボランティアは年中行事となっている。自治会に加入し、地域の一員として交流している。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 腰 高行 / 調査員 藤田 泰洋

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念に加えて、「地域との交流をすすめ、地域の一員としての暮らしをお手伝い」という、地域密着型サービスの理念の見直しがされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念を読み上げ共有化を図っている。理念から日々の実践に向けた取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	清掃などの地域活動や行事に参加している。子どもたちがよく立ち寄っており、子ども会のボランティアは年中行事となっている。自治会に加入し、地域の一員として交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解するとともに、自己評価の全項目を職員全員で評価して、サービスの質についての不十分な点をお互いに確認している。それに基づいて、サービスの向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームからの状況報告、行政からの情報や地域代表からの協力申し出などが出されている。また、家族からの要望などの意見に対しては、職員会議で検討してサービスの向上に活かすようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者が訪れるなど良好な関係を築いている。包括支援センターの学習会に参加している。町と連携して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや心身の状況については、毎月個々に便りを出して知らせている。出納帳はコピーして家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に反映するために、面会時や電話等で意見を出してもらうようにしている。また、運営推進会議でも家族が要望や意見を出す機会がある。職員に対しては、家族との情報交換を密に取り交流をすることを指導している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなく、馴染みの関係づくりを図っている。昼間職員が不足するとき、代わりに老人ホームの職員が入るが、利用者を良く知った特定の職員なので利用者の違和感はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では、感染症対策などの勉強会が計画されている。外部の研修を受ける機会を確保し報告・伝達研修もされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会の研修会に管理者や職員が参加している。職員も他のグループホームの見学や職員同志の地区の交流会に参加している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に訪問して、受け入れ態勢を作ってから利用することとしている。利用の申請者には馴染みながら利用できるように手順を話している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は体力が衰えて、できることが少なくなってきたが、伝統料理の作り方や地域の言葉など一緒に作ったり、教えられたりして支え合っている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のやりたい事や気持ちを表情や行動から汲み取り、また、家族から聴取して暮らし方を見定めている。入居してから新しい気づきに注意している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議で家族や職員の意見をふまえた介護計画を作成している。また、主治医の意見も聞いて介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にチェックして介護計画の見直しをしている。利用者の変化時には現況に対応した新たな介護計画を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の意向や状況に応じて、通院支援、理美容院の送迎、墓参りや老人ホームでの誕生会出席の支援をしている。その時々に応じて意向に沿うように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望するかかりつけ医となっている。毎月受診できるようにしており、受診結果も把握している。家族の協力を得ながら、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、個々に家族と話をしている。終末期の対応については、職員との協議は未着手である。		重度化や終末期の対応について、グループホームのできることできないことの方針を職員・主治医や家族と共有することが期待される。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	幼児語を使わないなど人としての誇りを傷つけないように、また、職員が勝手に部屋を開けないなどのプライバシーに気をつけている。勉強会やミーティングで、個人情報の取り扱いも含めて指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の引き継ぎなどを優先させないようにして、できる限り自由に本人のペースで生活できるよう柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立以外に希望の料理を作ったり、一品追加したりして提供している。状況に応じて下ごしらえなど入居者と職員と共に行い、一緒に楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ヨモギ湯や菖蒲湯などの薬草風呂を楽しんでいる。仲良し二人で入浴を楽しむ組もあり、ゆっくり入って長風呂となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブル拭きや御膳拭き、片付けなどの役割がある。また、島唄や童謡を歌ったり、カラオケなどの楽しみごと、気晴らしに海を見に行ったり、散歩に出かけたりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や食材の買い物・ドライブ、隣の養護老人ホームなどへ外出している。また、一緒にゴミ出しや祭りの見学などできるだけ戸外に行くようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居場所の確認と見守りをして、鍵をかけない自由な生活を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定して、消防立会の避難訓練を年2回実施している。自治会の自主防災組織を活用し地域の協力体制もある。台風時の水の備蓄や非常食の備えもできている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量やバランスを考慮した献立となっている。水分や食事の摂取量を毎日チェック・記録し、必要量の摂取ができるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、玄関から緑の植木が飾られ、木炭が各所におかれて脱臭と換気に配慮されている。ドーム状のホールは広く明るくて、島唄が流れており利用者の居心地をよくしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にトイレや洗面台が完備し、除湿・脱臭も配慮されている。家族の写真や使い慣れた日用品も持ち込まれ入居者が安心して過ごせるようにしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。